


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

学校名【福島県立田村高等学校】

1 実践テーマ	①・II・III・IV・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	1学年体育科 39名 2学年体育科 38名 合計77名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (スポーツ総合演習) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	県内唯一の体育学科設置校として、あらゆるスポーツへの関心を高めることや、車いすバスケットボールを体験し「共生社会の実現」に向けて理解を深めることを目標とした。
5 取組内容	<p>事前学習として、一人一人興味のあるパラリンピック種目について課題研究を実施した。その後6班に分かれ「車いすバスケットボール」をテーマに意見交換をし、歴史やルール、注目選手などについてクラスで発表した。</p> <p>車いすバスケットボール体験では、前半に、車いすの特徴や車いすバスケットボールの技術を披露していただいた。その後5対5のゲームをして大いに盛り上がった。</p> <p>後半は講師の神保康広氏の講演を拝聴し、障害を持った方の生活に対して理解を深めることができた。</p> <p>事後学習ではこの体験の感想を一人一人発表した。</p>
	

6 主な成果	<p>講演の中で神保氏より車いす生活では1 cmの段差でも大きな事故に繋がることを学び、これからの社会は障害者や高齢者など、誰もが使いやすい施設や製品の工夫が大切であることを学んだ。また、車いすバスケットボールの楽しさを体験し、将来障害者スポーツを支える指導者やボランティア活動をおこなってみたいといった声が上がった。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>講演会前に事前学習をおこなった「研究課題」を講師の神保氏に見ていただいた。事前に車いすバスケットボールについて調べてくれて嬉しいとお言葉を頂戴した。質問項目を講演の中で詳しく説明をしていただき講師の先生と生徒の距離感を縮めることができた。バスケットボール体験ではバスケットボール部の選手が車いすを使ってシュートしても上手く入らなかったことなど同じバスケットボール競技でも違いを知ってもらうことなどを工夫した。</p>
8主な課題等	<p>パラリンピックの基礎知識や魅力を学ぶことやパラリンピックを題材に共生社会を考える時間を設けることが今後の課題である。また、今後同じような事業を計画する場合には、日本パラリンピック協会や「あすチャレ」サポートセンターと連絡を取るなどをしていきたい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>学校体育施設を利用してできる、「ゴールボール」の用具を購入したことから、次年度以降授業でおこなっていききたい。また、本校の卒業生が「東京2020パラリンピック」車いすラグビーの日本代表選手として出場したことから、講演や体験学習をしたいと考えている。</p>